

加藤コレクション

玉松公叙

『故加藤延年先生とコレクション』岩倉・同志社標本館について』と題して、同志社標本館の紹介をしたことがあったので、ご承知の方も多いかと存じますが、再び、ここに紹介させていただきます。



標本館の内部

岩倉の同志社高校の敷地内の一角に、木

造平屋建瓦葺の、一見、寺院風の建物がある。これが同志社標本館で、館名を醇化館といい、この中に多数の動物標本を収蔵しているため、高校では、標本館と呼んでいるのである。

館内には約八千余点の動物標本を収めている。これらの標本類は、主として、元同志社教授故加藤延年先生が畢生の事業として蒐集されたもので、一つに「加藤コレクション」と呼ばれているのである。

加藤延年先生（元同志社中・高校長加藤延雄先生の父君）は、明治二十二年、同志社普通学校のご卒業で、明治三十二年から四十数年にわたり、同志社中学、女学校、高等商業、大学予科など、全同志社で教鞭をとら

れ、専ら、博物学（動物）、地理学などを担当、同志社教育に多大の貢献をされたのであったが、傍ら、情熱をもって、内外各地産の動物標本の蒐集に全力を傾注されたのである。

従って、動物各系にわたり、あらゆる標本を集められ、その数、実に数千点に及んでいる。これらの標本類は、島津製作所その他の標本商から購入されたものも多きが、学校から支出される僅少の経費では到底おぼつかないので、資金集めに相当苦勞をされ、ある時は自費を投せられ、また、校友、知人、時には在校生などにも訴えられ、その結果、先生の熾烈なる熱情に感動された人々によって、高価かつ貴重な標本が多数寄贈されたのである。

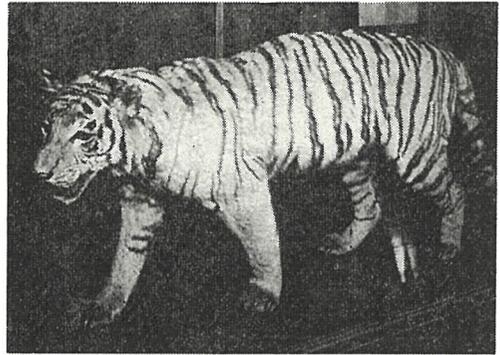
先生ご在任中は、今出川地区の理化学館の二階に収蔵されていたが、太平洋戦争（戦時）になった際、同志社工業専門学校が設置され、理化学館は工専に使用されるようになったので、大学図書館に保管され、更に、昭和二十五年に岩倉、同志社高校の醇化館（標本館）に移転、今日に至っている。

この館には、哺乳類、鳥類の剥製標本が

多く、その他、爬虫類、両棲類、魚類などを始め、各系の標本を網羅しており、特に貝類に至っては、六千点を越える数にのぼっている。この貝類の大部分は、大正年間に、京都岡崎に開設されていた「平瀬介館」（平瀬与一郎館主）から分譲されたもので、海産、淡水産、陸産等、当時の日本産貝類の大部分の種類や、外国産のものなど、多数がある。（加藤先生はこの平瀬介館の顧問だった。）

以上のような各種標本の中には、世界的珍種や、まさに絶滅に瀕している国際保護鳥、特別天然記念物、天然記念物として保護されているもの、また、標本として稀有貴重な珍獣貴鳥などが多くあり、日本では他に類を見ない量及び質においての貴重なコレクションで、専門学者の間では、高く評価されている。

例えば校友故山本唯三郎氏が、大正年間に朝鮮附近で猛獣狩を催された際の獲物数点が寄贈されているが、そのうち、「チョウセントラ」のごときは、立派な剣製と骨格とが揃っており、現在では、朝鮮やその附近にも「チョウセントラ」は絶滅している、絶対に入手不能の貴重且つ世界的に稀



チョウセントラ

有の標本である。

その他、最近、世人の関心事である絶滅寸前の鳥、すなわち、豊岡地方で飼育にようにやく命脈を保ち、わずかに数羽しかないコウノトリや、佐渡のトキ、対馬特産ですでに絶滅したキタタキ、鳥島のアホウドリ、高山の名鳥のライチョウ、内地山岳地帯に住むニホンカモシカ、奄美特産のアミノクロウサギ、徳の島のルリカケス、その他、特別天然記念物や天然記念物の標

本も多数収蔵されている。

なお、ニュージーランド特産のキビィは鶏大の無翼鳥で、国際保護鳥に指定されており、大阪での万博開催の際、同国から出展された雌雄一羽がいが、終了後、大阪天王寺動物園に寄贈され、雌が死亡したことは、新聞に大きく報道された事であったがこの珍鳥の標本もあり、また、ニューギニア特産の美しいゴクラクチョウの数種、中南米の小さく美しいハチドリの種類などあり、ワシ、タカ、ツル、水鳥、山野鳥、飼鳥など内外の鳥類は豊富である。卵生獣のカモノハシ、ハリモグラ、貧歯類のナマケモノ、オオアライクイのような下等哺乳類から、有袋類、猿類など、殊に猿類では高等な類人猿チンパンジーやオランウータン始め、下等猿類のキツネザル、ロリスなど各種の猿類も見られ、また体長6mもあるニシキヘビ、毒蛇ガラガラヘビ、コブラ、ハブ、オオトカゲなど枚挙に暇ない程で、丁寧に見れば相当の時間がかかるのである。ただ保管がはなはだ不行届きで、深く責任を感じております。

（高等学校校嘱託講師・理科）